

知的財産事例

株式会社クロスフォー

積極的にライセンスを活用したビジネス展開 ダイヤモンドのプロとして、国内外に新発想のジュエリーを届ける

事業内容

1987年設立（創業は1980年）
ジュエリー・アクセサリ製品の製造販売
海外向けパーツの製造販売
独自製品の開発・製造販売

知的財産権と内容

特許第5424435号	身飾品 (Dancing Stone)
実用新案 ZL201820743174.0	身飾品 (Dancing Stone) ※中国において取得
意匠第5695161号	身飾品保持具 (Dancing Stoneパーツ)
商標第5695161号	Dancing Stone
商標第6593304号	EXCELLENT LOCK

他 商標権105件、特許権148件、意匠権146件、実用新案8件

(2024年11月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役社長 土橋 秀位さん

独自技術の開発により 貿易会社から転身

当社は元々宝石の輸入を専門としていたが、事業が軌道に乗った1987年、税理士の勧めで法人を設立した。その後はバブル崩壊の時代を乗り越え、「独自性を証明できるものを作りたい」とジュエリーの製造・卸売に転換。新たなダイヤモンドのカット技術『クロスフォーカット』を開発した。同技術は、独自の46面体カットによる十字型の輝きが特徴で、特許や意匠、商標といった知財を取得するきっかけとなった技術でもある。また、2010年にはダイヤモンドが常に踊るように揺れ、光が瞬き続ける宝石のセッティング方法『ダンシングストーン』を発明し、世界的なヒットを記録。現在も多くのジュエリーに採用されている技術だ。このような多くの開発・発明により、当社はダイヤモンドのエキスパートとして国内外を問わずライセンス契約を展開している。今後は東南アジアに注目し、さらに海外への販路を拡大していく方針だという。

独自技術の開発により 貿易会社から転身

土橋社長は「市場の大きさを考えれば、海外市場を選択肢に入れられない手はない」と、元貿易商ならではのグローバルな視点から、海外へ進出。知財の必要性を早くから意識し、国際特許に関しても海外進出の際には必ず登録してきた。これまでに特許や実用新案、意匠、

商標、合わせて数百以上の権利を取得しているが、初めて挑戦した当時はまだデジタル化が進んでおらず、調査や申請にかなりの時間を要したそうだ。また、業界では知財の活用が浸透していなかったため、宝石の分野に長けた弁理士を探すことも苦労したという。しかし、東京まで足を運ぶなど、特許事務所へのこまめな相談を心掛けた結果、信頼できる専門家に出逢えた。現在は社内に知財の担当者を配置し、各機関と連携することでスムーズな対応を実現している。

誠実な企業と取引するため 「ライセンスビジネス」に力を入れる

海外においては「コアパーツにロイヤリティを上乗せして販売する」という形式をとり、あえてデザインを限定せず、現地での幅広いニーズに対応できるよう工夫している当社。中国やタイ、インド、ドバイ、ヨーロッパ、アメリカなど世界各国での展示会に出展する中で、世界的な大企業から興味を持ってもらうためのきっかけとしても知財は役立っているという。また、海外に拠点をもち、幅広く技術を広めるにあたっては模倣対策が課題となるが、知財があれば「自社が本物である」という証明になるため、常に毅然とした態度で臨むことができている。中でも特筆すべきは、模倣が疑われた先でも、話し合いにより相手方に悪意のない姿勢や確かな技術力が感じられた際には、自ら「本物を目指す意志があれば取引しよう」とライセンス契

約を持ちかける、というビジネスに対する積極的な姿勢だ。こうした手法は「知財に対し相応の対価を払える、誠実な企業と取引したい」という土橋社長の信念に基づいている。このようなビジネス観を持って事業を展開してきた結果、2019年には宝飾業界初の「知財功労賞」を受賞。「これからも“他にはない”と思われる素晴らしいものを生み出せるよう、アイデアを追求していきたい」と土橋社長は意気込みを見せる。

先に特許を取得され トラブルが発生した経験も…



とはいえ、長年、海外も含めて知財取得に取り組む中では苦労もあったという。はじめは、専門知識が多い文献の内容を理解することに難航。また、『クロスフォーカット』を開発した際には、その技術に必要な附属品である「光学スコープ」の特許を後発の別会社に先に取得されるというトラブルもあった。結果的に和解には至ったが、当社にとっては改めて特許の重要性を実感する出

来事となったそうだ。このように、「様々な企業とのやり取りを経て、ケースバイケースの対処を学ぶことも多い」と土橋社長は話す。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「自分にとって知財を一言で表すなら“クリエイティビティ（創造性）を助けてくれる存在”である」と土橋社長は語った。そして、権利を振りかざして利益を独占するためのものではなく、あくまでも社会への貢献という企業理念に基づいて「消費者や取引先など、世の中全体にとって良い製品を提供するために使うのが正しい在り方だと思う」と続けた。また、「特に中小企業の知財は細かな部分の課題解決を目的として生まれる傾向がある。これから知財に取り組む方々は、ぜひ未来を信じて続けてほしい」とも併せて話した。新しいものを世に出したい、という情熱を持ち、取り組んだ成果が、形ある権利として当社の財産となった。



『ダンシングストーン』は、呼吸など、人の自然な振動によって星のように煌めき続ける



開発技術の土台を作った、当社独自の『クロスフォーカット』。十字の輝きが美しい



知的財産活用のポイント

「新しいもの」のため、 “めげずに”チャレンジする姿勢

当社は、土橋社長の広い視野から生まれるアイデアをもとに開発を進めてきた。海外展開についてもそれが活かされており、「国際特許に関しても、日本と海外でハードルが大きく変わるという感覚はなく、どんなものでも世界に展開していこう、と

いう考えがあった」という。また、『ダンシングストーン』の開発の際にはコスト削減のため、金型の代わりに大根やキュウリなどの野菜を使い、日々自宅で研究を重ねたそうだ。取材時にも「めげずに」という言葉を度々発していた土橋社長。広い視野と軽快なフットワークを常に持ちながら、根気強く挑戦していく姿勢が、知財の活用に繋がった。

COMPANY DATA

取材：2024年11月

企業名：株式会社クロスフォー 所在地：山梨県甲府市国母7-11-4 電話番号：057-008-9640

URL：<https://crossfor.co.jp/> 創業：1980年 資本金：7億1300万円 従業員：89名

